令和４年度　学校評価表

土成中学校

項目	具体的努力目標	自己評価 達成状況など	4段階評価	改善策など	学校関係者評価 4段階評価	ご意見
①豊かな心の育成	○人権教育の徹底 （いじめのない学校）	◯人権学習を通して，自分の行動や価値観をみつめ，自分の生き方について考える機会を設けることができた。 ◯学校生活の中での言動で，人権学習からの学びが反映されている場面が見られるようになった。 ◯研究授業や校内研修を定期的に行い，教職員の資質向上を図ることができた。	A	○アンケートでは生徒・職員や保護者の人権学習に対する肯定的評価は高いが，実生活では人間関係のトラブルも見られ，引き続き人権学習への取り組みが必要である。 ○人権課題を自分の問題としてとらえ，かつ自分の生活をより良い方へ活かしていける取組をさらに進めていく。 ○引き続き研究授業や校内研修を行い，教職員の人権感覚を磨いていく。 ○毎月の生活アンケートや校内巡視などを利用し，生徒の実態把握に努め，生徒が過ごしやすい学校づくりに今後も取り組んでいく。	A	○アンケートの数値に対して，現場ではどのようにとらえているのか知りたい。 ○アンケートでは汲み取れない生徒の些細な変化にも気づくことができるように，日頃からコミュニケーションを大切にしてほしい。 ○「学校にはお子様の悩みを相談しやすい雰囲気がある」の質問に対し，約3割の保護者が「あまりそう思わない・そう思わない」と答えている現状を踏まえ，これまで以上に積極的な生徒指導に取り組み，生徒の成長を促す声かけや指導を続けてほしい。そして相談しやすい環境づくりに取り組んでほしい。
	○道徳教育の推進	○「特別の教科　道徳」に対する教師の意識も生徒の意識も高まってきた。 ○時間の都合上，学年によっては22の内容項目すべてを取り上げるのは難しかった。 ○年間2回の研究授業を行い，授業研究会を通して，道徳科の授業力の向上につなげることができた。	A	○年間35時間の道徳科の時間を確保する。 ○授業力の向上をめざした研修（研究授業・授業研究会）を行う。	A	
	○生徒指導の充実	○教師間の共通に基づく生徒指導においては，各学年共に学年主任を中心に決定したことは指導できた。 ○生徒に自己決定の場を多く与えることにおいては，校則についての話し合いを通して生徒の意見を元に一部改正をした。 ○生徒指導体制においては，共通理解のもとに小さなことにも丁寧に複数の教員で生徒指導にあたれた。 ○悩みを相談しやすいと答えた生徒は72%と，昨年度より7%下がった。 ○できる限り生徒の中で教師が過ごす時間を多くとり，生徒との対話を増やすことに努めた。	A	○教師の指導のもとに生徒会の挨拶運動や専門委員会の服装検査，自転車点検を継続し，生徒自らが主体的に取り組む活動を継続させていく。 ○生徒観察や生活アンケート，生活記録から生徒の変化を捉えて，積極的な生徒指導の徹底を実践していく。 ○学年単位だけでなく，教師間の会議や連携で積極的な生徒指導を実践していく。 ○日々の学校生活や教育活動等の中で，人間関係を深め相談しやすい雰囲気を作っていく。	A	
②特別支援教育の充実 確かな学力の育成	○基礎的・基本的な知識・技能の徹底	○基礎・基本的な学習内容には，意欲的に取り組める生徒が多く，学びに対する意欲が見られた。 ○保護者アンケートの家庭学習の定着については，肯定的な評価が55%，生徒アンケートでは52%と低く，家庭学習の工夫が必要である。 ○自分の課題を見つけ取り組むことができる生徒が少ない。 ○「読書の習慣がついている」の項目では，保護者が39%，生徒が52%と（昨年　保護者41%，生徒60%）下がっており，個人差が大きくなっていると考えられる。	C	○学力の定着には欠かせない家庭学習の意義指導なども含め学習習慣の定着を図る。 ○個に応じた指導とアドバイスを行うようにする。 ○自分の課題を見つけ，その解決に向けて調べたり，学び合ったりしながら主体的に取り組めるように実践していく。 ○図書館の開館や学級文庫の設置など，委員会活動は継続しているため，読書の習慣化につながる呼びかけを続けていきたい。	B	○コロナ禍で行事が減った中，修学旅行や校外学習など，可能な範囲での学習はできたと思うので，評価が厳しすぎる項目もあるのではないか。 ○行動制限が緩和されたら，可能な範囲で，ここ数年できなかった職業体験や，いろいろな体験活動を実施してほしい。特に職業体験では，地域の人材を活用することが大切である。 ○家庭や関係する機関と連携し，必要な情報を共有しながら，それぞれの生徒によりそった指導をお願いしたい。 ○保護者や関係機関との連携を図りながら，個別の支援が必要な生徒に対して，さらに充実した支援ができるように取り組んでほしい。 ○目の前にある自分のやるべきことにしっかりと取り組むことが，自分の未来を切り拓く力につながることを指導しながらキャリア教育を進めてほしい。
	○キャリア教育の推進	○各学年とも，キャリア教育の計画に基づいての進路指導を総合や学活の授業を利用してできており，生徒も将来についての考えを家庭で話している。「ご家庭では，お子様と進路や将来のことについて話をしている。」という項目では，昨年の94%から89%に下がっているが，引き続き高い水準である。	B	○新型コロナウイルスの関係で職場体験を行うことができなかったので，それに代わる，生徒が進路や将来について考える機会を授業の中で設定する必要がある。 ○キャリアパスポートの活用に向けて共通理解を図る。	B	
	○総合的な学習の時間の充実	○新型コロナウイルス感染拡大の影響で，実施が難かしかったが，各学年で時期や内容を変更するなどして，体験活動を実施することができた。 ○地域のことや将来について調べ学習を行うことで，生徒たちの自己認識を深める機会を設けることができた。	C	○新型コロナウイルス感染状況に配慮しながら，体験学習の実施計画を立てる。 ○自分自身につながることだと生徒に意識させて活動に取り組ませる。	B	
	○特別支援教育の推進	○学級のファイルや帰りの会等で，保護者や生徒とのコミュニケーションを取ることができた。交流学級に入りにくい生徒にも，支援学級には登校しようとする意欲をもたせることができた。 ○個別の指導計画で，生徒に関わる多くの教員がその生徒の特性を考えて指導の目標を立て授業に臨むことができた。教員の情報共有としても利用することができた。 ○支援学級に在籍する生徒の数が増えたこと，個別の対応が必要な事例が増えたこともあり，教師の「特別支援学級の充実が図られている」の項目は95%から85%に下がっている。	B	○生徒一人一人が，授業の中で達成感を味わうことができる支援を行う。 ○交流学級での生活を通して，多くの人と共に活動する楽しさを味わうことができる支援を充実する。 ○生徒個々に対して，可能な範囲での支援を実施し，関係機関との連携も行いながら，生徒の基礎学力や自立の支援につなげる。	B	
③健やかな体の育成	○健康でたくましい身体の育成	○体育の授業では，特に三学期に持久走の実施により，体力を向上させる取り組みができた。継続して行うことで，体力の向上を実感できた生徒も多い。同時に体力向上の意義や必要性を指導することにもつながった。 ○身体測定等で，自分の発育・発達に気付く機会となった。	B	○食事や睡眠など，自分の健康管理に気をつけていると答えている生徒が9%増えており，75%の保護者もそう感じている。一方で，給食の時間でも残食をする生徒が多いと感じている。また，就寝時刻が遅い生徒もいる。家庭と連絡をとり，基本的な生活習慣の定着を図っていく。 ○自らの体調や体力だけでなく，仲間の体調や体力にも気付き，望ましい関わり方ができる	B	○身体の育成・食育の充実は，学校教育だけでは限界がある。さらに家庭と連携し，対応していく必要がある。 ○大きな道路の開通など，周辺の交通事情も変化しており，交通マナーの啓発を継続してほしい。 ○防災意識を高め，日ごろから自分の命を守る行動や備えができるように，指導を継続してほしい。
	○安全教育の充実	○「交通マナーの指導の徹底」という項目では,94%の生徒が今年度の交通指導を肯定的に見ていた。保護者においては,昨年に引き続き95%を越える保護者が交通指導体制を肯定的に捉えていた。 ○避難訓練を2回実施した。10月には,火災を想定した避難訓練を実施し,グラウンドに避難した。1月には,地震を想定した避難訓練を実施し,第2避難所である自転車置場に避難した。	A	○大半の生徒・保護者が交通マナーを遵守していると回答している一方，地域から交通マナーに対するご意見をいただいたこともあり，朝の交通指導だけでなく,放課後の交通指導も引き続き実施していく。 ○災害を想定した避難訓練を実施していく上で,関係機関や保護者と連携した訓練も計画していく。	A	
	○食育の充実	○放送委員会と連携を図り,食に関する啓発活動を継続することができた。 ○栄養教諭による出前授業を実施し,食に関する知識を深めることができた。	B	○関連教科でもより一層食育に関する学びを深め,家庭での生活を振り返る必要がある。 ○引き続き栄養教諭と連携をとり出前授業を実施していく。	B	
④特別活動の推進	○生徒会活動・学級活動の充実	○生徒総会では，事前に各クラスで話し合い，生徒会役員・クラス代表が集まり，校則や学校生活のマナーについて話し合うことで校則の一部改正につなげることができた ○学級では，一人一役で1年間責任をもって取り組もうとする姿が多く見られた。 ○清掃については，教師の肯定的な評価が53%であるのに対し生徒は94%と評価に大きく差が出ている。	A	○生徒は，教師のサポートのもと主体的に活動に取り組むことができた。生徒会担当や学級担任まかせにならないように，全教職員の目で全生徒を見守っていける体制を更に構築していくように務める。	A	○来年度も引き続き生徒が主体的に取り組めるように指導を続けてほしい。 ○今年度はあまり実施できなかったが，ふるさとクリーンデーなど，地域でのボランティア活動など，今後も継続してほしい。
	○環境・福祉ボランティア教育の推進	○ふるさとクリーンデーに参加する生徒も多く地域貢献活動に取り組んでいる。 ○緑化推進委員会を中心に学校の花壇をきれいに保ち，環境美化に努めた。 ○清掃に関する項目では，教師の肯定的な評価53%（昨年90%）にたいし生徒は94%（昨年89%）と結果に大きな差が出ている。	B	○生徒会を中心に各学級でキャップやプルタブ集めの意義を伝えていく。 ○学校や地域の環境美化に努める。 ○日々の清掃活動を充実させ，時間いっぱい清掃に取り組む生徒を育成する。	B	
⑤研修の充実	○校内研修の工夫 改善と計画的な実施	○各学年で大研が実施できた。授業後の研究会も生産的な意見が数多く出て，充実していた。 ○特別支援教育等の研修も実施できた。 ○毎月定期的にメンター研修を行うことができた。 ○学年主任を中心に，特に生徒指導に関して，問題行動への対応，予防等についての話し合いができ，実際の指導に生かすことができた。また日々の雑談のなどの中でも生徒指導などの話し合いや先輩教師からの助言も見られた。	A	○生徒たちの生活の改善に反映させられるような大研，研修内容にしていく必要がある。 ○メンター研修で話し合われた内容も学校運営や学年，学級経営に生かせられるような体制づくりを行う。 ○若手教員は特に，悩んだり，行き詰まっている生徒が安心して本音が話せるような信頼関係の作り方を，ベテランの先生の意見を参考に，自ら見つけようとする意欲を持つ。	A	○メンター制による研修等，引き続き効果的な研修に取り組んでほしい。 ○「学び合い週間」を効果的に活用し，引き続き授業力・指導力の向上に努めてほしい。
⑥開かれた学校教育の推進	○家庭・地域社会 関係機関との連携	○コロナ禍のため公開中止となる行事もあったが，体育祭，参観授業の際には分散しながら多くの保護者の方に生徒の様子を見てもらうことができた。 ○地域ボランティアの協力で，「朝の読み聞かせ」を実施することができた。 ○市子育て支援課やあわっ子スクールなど各関係機関との連携を図ることができた。	B	○今後も感染状況を考慮しながら学校行事を計画し，できるだけ公開できるようにする。 ○各関係機関や校区内小学校との連携をさらに密に行う。 ○ホームページを活用し，効果的に情報公開を行う。	B	○学校・家庭・地域社会が連携し，課題を共有し合う学校づくりを進めてほしい。 ○来年度も参加できる行事には協力できるようにしたい。
	○業務改善の推進と職場環境の改善	○統合型業務支援システムの活用が徐々にスムーズに行えるようになり，特に進路関係文書の印刷は便利であった。 ○部活動指導員，学びサポーターなど，外部人材を活用することができた。 ○会議時間の短縮など，業務のスリム化がまだ不十分である。	D	○出退勤管理システムを活用し，タイムマネジメントを正確に推進する。 ○学校行事の精選，会議のスリム化を行い，業務の軽減を図る。 ○地域の外部人材を活用し，部活動等の負担軽減を図る。	C	